

評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価
		評価点	学校としての反省・改善策	
1	教育目標	A	校訓である「清い心・たゆまぬ努力」を達成するために、教育活動全般において「あたたかな思いやりと活気に満ちた明るい子」の育成を目指す活動を行うことができた。また、PYP認定校として建学の精神を具体的に10の学習者像として示し、生活・学習両面において日々の生活の中で取り組み、意識を図った。	
2	宗教指導	A	聖書の教えを基礎として宗教の授業を行い、朝礼や学級の活動を通して、日々の生活の中にも神様の存在を感じ生活することができた。宗教行事だけでなく、カトリックミッション校として発達段階を踏まえながら教育活動を行っている。	○ミッションスクールとしての一歩大切な豊かな心がサレジオの子どもたちに育っているのを実感している。他者への思いやりの心が、子どもたちの自発的な発想から生まれている現実には本当に素晴らしいことだと思う。これからもドンボスコの予防教育、全人教育を通して、皆様が子どもたちの教育に献身してほしい。
3	教育課程	A	プライマリー(1~4年)は、基礎基本の徹底を図っている。探究学習では、PYPユニットプランナーを作成し、教科の枠を超えたテーマのもと主体的に問題を解決できるようにして、10の学習者像に近づけるようにした。読むとくメソッド、英検Jr、ウイークリーテスト等サレジオメソッドも取り入れ、語彙数を増やしたり、リスニング力を高めたり、学習の効果が現れるように工夫した。また、ミドル5・6年生では、MYPユニットプランナーを作成し、学習を行った。英語の時間数と内容を増やし、更に英語の力を伸ばす工夫を行っている。小論文メソッドも取り入れ、論理的思考が身につくようにした。	○新学期開始早々にタブレット端末を配布していただき、オンライン授業の体制を整えていただき、保護者として大変安心した。また先生方には慣れないオンライン授業を工夫して実施していただき、子どもたちも家庭での学習に目標を持ち、WEB上で顔を合わせることでモチベーションの維持ができたのではないかと感じている。
4	評価・認定	A	一人ひとりの児童に寄り添いながら、丁寧に指導を行っている。観点別に評価を行ったり、どのように学びが深められているか学習の過程を記述している。単元ごとに総括的評価課題を設定し、学びの定着を図っている。また、英検Jrテスト・読書診断指数などの外部評価や自己評価も取り入れ、客観的に評価している。	
5	教科指導	A	教科で教えるべき知識とスキルを確実に身に着けるための授業改善を進め、実行した。5・6年生では、教科の学習に力を入れた。プライマリーの探究学習では、年間5つのユニット(単元)を設定し、セントラルアイデア(仮説)を検証してきた。その結果、思考・判断・表現力が培われてきた。4月から一人1台のiPadを導入し、すべての教科で思考力を伸ばすためにICT機器を使った授業を行った。休校期間中もオンライン学習を行い、学びを止めず行うことができた。しかし、コロナ禍で協働学習が思うようできず、児童の学力を伸ばすために、更なる授業改善を考えている。	○バカロレアの理念にあるような探究的な学びをもっとたくさん導入してほしい。 ○コロナによる休校からiPad配付までの素早い対応は大変すばらしかった。授業の遅れも感じず、むしろピンチをチャンスに変えて教育環境を大きく変換できたと思う。今後もiPadを活用し効果的に授業に活かしてほしい。 ○ICTでリモートやデジタル化された教育が進むことでの弊害をアナログなメンタル的な活動で補えるようお願いしたい。
6	授業研修	A	授業について学年ごとに教員間のミーティングを週1回行い、授業設計への理解を深めた。また研究授業を計画・実行し、効果を検証した。ICT機器も取り入れ、効果的なICT機器の使い方も積極的に校内で研修を行っている。	
7	学級経営	A	教員は学級の児童と共にいることを大切に、子どもの心をもとめ取り組みを実践している。年2回の個別面談だけでなく、保護者と連絡を密にやり取り適切に対応している。学校だよりや学年通信をはじめ、お知らせをWEBで配信し、全家庭にできるだけ早く情報を伝えるようにしている。	○クラスという集団生活における課題・問題を生徒たちが主体的に解決できるように教師が申し越しサポートできると良い。 ○日々雑務に追われオーバーワークの状態では授業で最高のパフォーマンスを発揮できないと思う。
8	生活指導	A	毎月の生活目標を決め、教師が共通理解をもち、朝礼や朝の会等で大切なことを呼びかけている。また、通学マナー等に関しても、集団下校グループを作り指導を行っている。今年にはコロナ禍で集団下校の実施は行うことはできなかったが、下校時、JR草薙駅に教員が交代で立ち見守っている。JR通学者に関しては、繰り返し乗車マナーの指導を行っている。	○子どものメンタルケアを担任に任せるとはならず、子どもたちがもった気軽にスクールカウンセラーに相談できるように学校の雰囲気作りも必要だと思う。 ○先生方の中にはご挨拶してくださる方もいてとても嬉しい。
9	進路指導	A	児童や保護者との面談をもち、児童の将来を考えた進路指導を行っている。将来の夢をもち、具体的な将来像を持つことによって児童の学習意欲も上がっている。5年と6年時に中学校の説明を聞き、サレジオ中学校への理解も深めている。	○1人1人に寄り添う指導を増やし、生徒たちの本質的な課題抽出や学校生活を通して今後の目標・将来像が話せるような指導を望む。
10	安全管理	A	コロナ感染予防対策として、児童が下校後、教職員で毎日教室やトイレなどを清掃し、机椅子手すりなどの消毒を行った。また、手指の消毒やマスクの着用、検温、三密の回避、時差登校など感染対策に細心の注意を払った。朝の会で、児童の健康観察を重視して行っている。安全面では、登下校安心メールを利用したり、JR草薙駅構内まで教員が毎日送ったり、児童の安全面に配慮している。また、ゲート警備を強化し、門の解錠に関して安全管理体制をいっそう整備した。コロナ禍で学園防災訓練や防犯教室を行うことはできなかった。	○新校舎が駅に近くなることと、校舎が離れることになるのでセキュリティ面をより強化していただき、安心して通学ができる体制を作っていただきたい。 ○新校舎が完成した時の生徒の送り迎えの車両の導線が気になるので、完成後しばらく様子を見てほしい。 ○今年度はコロナ禍のため、全校生徒での避難訓練ができなかったが、常に避難経路や集合場所、保護者との連絡方法などの確認や備えができればいいと思う。 ○南門から走って駅に駆け込む小学生をよく見かける。車も通るので今一度指導してほしい。
11	校務分掌	A	全教職員がそれぞれの職務や担当する役割に対し、責任を持って取り組んでいる。	○1つ1つの作業や年間行事を改めて見直し、効率的な学校運営をすることは教師の皆様にとっても負担を減らすことになると思う。

12	行事運営	校外外で行われる学校行事は教育目標に照らして十分にその役割を果たしている。	A	コロナ禍で行事を縮小したり、宿泊学習やサレジオ祭、スキー教室などを中止にしたりせざるを得なかった。しかし、今年だからこそできることを考え、運動会や星の子活動、クリスマス会など工夫をして実施し、児童の発達段階に合わせて心に残る行事を実施することができた。	○保護者とりわけ母親も社会進出を考えてもWEB懇談会はコロナ後の世界にもしても継続してほしい。 ○子どもたちが楽しみにしている行事のほとんどが中止並びに縮小をされたことはとても残念。今後、あらゆることにおいてリスクが伴うのは避けられないが今年度の経験を活かして、来年度において的確な判断を行えるようにしてほしい。 ○ベルマーク回収を辞め、WEBベルマークにかえて効率よく貯められるよう、切り替えていく良いタイミングでもあると思う。バザー開催以外にも学校資金を集める1つの方法としてWEBベルマークは大きな意味がある。 ○フィリピンへの支援も物品回収の手間・送料を考えると募金を送金する方法に変えても良いかもしれない。 ○行事に関しても今年度は仕方がない部分もあったが、実施と感染防止のバランスを考え、工夫して実施してもらえたらと思う。来年度はより多くのイベントが実施できるようになるといい。 ○コロナが落ち着いた後の授業・各種行事等の運営をどのように行うかを検討する必要性を感じる。 ○行事などが中止になり、生徒たちの力を発揮するチャンスができなかったことは残念。
13	管理運営	学校組織の管理運営系統が明確で、役割分担や協力体制が整っている。	A	学年部長を中心に2学年ずつ組織され、報告・連絡・相談・指示を密に行い、保護者とも迅速に連携できる体制をとっている。また学年部長は管理職との連絡を密にとり、それぞれが協力して運営を行っている。また、幼・小・中・高との連絡も密に取り合い、学園として一本化した運営を行っている。	
14	施設・設備	本校の施設、設備は児童が生活する上で快適な環境として管理・整備されている。	B	校舎の老朽化のため、修理が必要な箇所が多い。大雨が降ると、雨漏りをする箇所が数か所ある。3階は常にバケツを用意している場所もある。今年9月には新校舎の建築が完成するので、新校舎の最新設備に期待している。Wifi環境を整備し、一人1台のiPadを導入したので、様々な学習が可能となった。	○9月に完成する新校舎を楽しみにしている。 ○プライマリーの新校舎の完成が近づいており、ハード面においても今後期待している。 ○子どもの安全を優先して課題解決してほしい。 ○各校種共に施設・設備の老朽化による生徒・児童の安全面に不安を抱えていることは心配。 ○小学校の老朽化については新校舎が建設されれば解消されるようなので期待している。
15	課外活動	放課後の課外活動を通じ、教師が常に児童と共にいるように努めている。	A	ジョイクラブ、課外体育、スクールバンド等、週に2～3回の課外活動を行っている。放課後の補習学習なども行い、常に児童と共に教員がいるようにしている。また、放課後のドボ・スコラでは、家庭的な雰囲気のもと児童を預かり、共に学習したり、遊んだりしている。	○色々な活動を行っていてとても良いことだと思う。今年からスタートしたベルテックス静岡のプロ選手からバスケットを教えてもらえることにびっくりした、素晴らしいと思った。これからも子どもたちのために新しいチャレンジを取り入れてほしい。
全般、総合評価			A	4月の休校と同時に全児童にiPadを配布して、オンライン授業を開始したことにより、ICTの活用が急速に進んだ。デジタル教科書も導入し、日々ICTを活用した学習活動を行っている。教員は物理的にも精神的にも常に子供達とアシステンツァ(共にいること)を心掛け、取り組んでいる。今後も教職員一同一丸となって取り組んでいきたい。国際バカロレアPYP認定校として、探究学習を進める中で国際的視野に立ち、異文化理解と尊重を通じて、より良い平和な世界の構築に貢献できる人の育成に取り組んでいる。建学の精神のもと、更なる努力を続けていきたい。	○親として安心して子供を預けさせていたいただいており、そのための努力を教師の皆様がしてくださっていることに大変感謝している。 ○今年度はコロナ感染症の対応に振り回されたが、サレジオの対応は他校に比べて良い評価であると聞いている。 ○コロナ禍にあっても先生方は一生懸命取り組んでいることがよく分かった。

【評価点】

- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

今後に向けての考え方(学校関係者評価を受けて)

建学の精神のもと、学校生活全般において更なる精進を重ねたい。学習面だけでなく、生活面においても一人ひとりに目を配り、今後もきめ細やかな指導を続けていく。新型コロナウイルス感染予防のため、今後も行事の見直しが必要であるが、行事ごとの教育活動の意味と効果を考え再考していきたい。2020年度はiPadを一人1台の導入しデジタル教科書も導入した。2021年度は全クラスに電子黒板を導入し、ICT機器の更なる活用を目指し、探究型授業を深めていきたい。国際バカロレアPYP認定校、MYP候補校として実践を重ね、探究型授業の研究、教員研修組織、学習評価など学校の現状を伝えていきたい。昨年度は3月に、PYP・MYPの保護者勉強会を行うことができなかったが、今年度はできるだけ実施し保護者と共に学びを深めていきたい。秋には新校舎が完成するので、施設・設備の面でも整い、セキュリティも強化され安心して通学できる環境を考えている。